

9 泊如竹の墓 (トマリジョチクノハカ)



指定 昭和 36 年 8 月 16 日 県指定文化財(史跡)

所在地 安房 104-1

管理者 屋久島町

泊如竹は、屋久聖人と称えられ、屋久島が生んだ偉人である。

元亀元年(1570)1月17日、船大工泊太次右衛門、初亀夫婦の長男として安房に生まれる。幼名を市兵衛という。5歳で本佛寺に入り、名を日章と改める。その後、法華の教えを学ぶため京都の本能寺に入る。

慶長10年(1605)、京を去り、薩摩正興寺の文之の門に入り儒学を学ぶ。この頃より、如竹あるいは、如竹散人と号す。

慶長19年(1614)より伊勢の藤堂高虎、寛永9年(1632)より琉球王尚豊、寛永17年(1640)より薩摩19代藩主島津久光に侍講として仕えた。門人多く、中でも愛甲喜春、東郷重経等は有名である。

翁は、一生を僧形、独身で過ごす。質実剛健にして廉潔、博学宏才師に及ばずとも徳器名節師に勝ると言われた。

また、学問だけでなく、政治外交にも力を発揮し、稲作の改良普及、上水道の開削(→如竹掘)、屋久杉の貢納化などに努めた。

翁は、死に臨み、村を災いより守るとしてこの地に葬ることを望み、明暦元年(1655)5月25日、85歳で永眠した。